

## 地殻変動連続観測における季節変化

## Seasonal variations in the continuous observations of the crustal movement

# 寺石 眞弘 [1]; 尾上 謙介 [2]; 大谷 文夫 [1]; 中村 佳重郎 [3]; 竹内 文朗 [4]; 森井 互 [5]; 細 善信 [6]; 園田 保美 [1]; 和田 安男 [1]

# Masahiro Teraishi[1]; Kensuke Onoue[2]; Fumio Ohya[1]; Kajuro Nakamura[3]; Fumiaki Takeuchi[4]; Wataru Morii[5]; Yoshinobu Hosoi[6]; Yasumi Sonoda[1]; Yasuo Wada[1]

[1] 京大・防災研; [2] 京大・防災研・地震予知研究センター; [3] 京大・防災研; [4] 京大・防災研・地震予知セ; [5] 京大・防災研・地震予知; [6] 京大・防災研・地震予知センター

[1] DPRI, Kyoto Univ.; [2] Research Center for Earthquake Prediction, Kyoto Univ.; [3] DPRI, Kyoto Univ.; [4] RCEP, DPRI, Kyoto Univ.; [5] RCEP, DPRI, Kyoto-Univ.; [6] RCEP, DPRI, Kyoto Univ.

これまで京都大学では、多くの(横坑式)観測坑道で伸縮計・傾斜計などによる地殻変動連続観測を行ってきた。これらは主に、測地的な興味の対象として進められて来た。また、これらの連続観測は観測坑道を取り巻く環境・立地条件により、経年変化、季節(年周)変化など、各観測点毎に非常に多様性に富んでいる。一方近年においては、センサーやデータ収録の電子化、データ伝送の発達により、歪分解能や時間分解能の高精度化が進められ、スロースリップの検出、超長周期の表面波や地球自由振動等の地震波形など、地震学分野への取り組みがなされるようになって来た。このような動きの中、これまでの連続観測記録、観測施設の系統的評価が必要だと考えられる。

今回は、各観測点の歪データの季節変化を同一方法で抽出し、ノイズレベルなどの比較・評価を行う。方法としては、近畿地方とその周辺部および宮崎観測所で管轄している日向灘地殻活動総合観測線の7点を対象に、各点のデータに対して季節調整プログラムを適用し、毎年の季節変化パターンをモデル化して抜き出し、その結果を温度や降雨等との依存性について比較検討する。季節変化の主因としては、気温と降雨によるものに大別できるが、降雨による擾乱は各年により降雨の時期、降雨量も異なっている。